

宮城県養殖振興プラン（再生期～発展期）【概要版①】

I 計画の策定趣旨と概要

趣旨

- 県では競争力と魅力ある水産業の実現によって本県水産業の復興を成し遂げるため、平成26年10月に「水産業の振興に関する基本的な計画」を策定しています。
- 生産者の生産・生活の基盤である漁村地域が活性化するためには、基幹産業である漁業、とりわけ養殖業の復興が必要不可欠なことから、収益性の高い養殖経営の実現に向けたアクションプランとして、「宮城県養殖振興プラン（再生期～発展期）」を策定しました。

「水産基本計画」の分野別復興計画を踏まえた「養殖業」の復興に向けた取組の方向性

- ◎生産基盤早期復旧のための施設整備を促進
- ◎貝毒監視など養殖水産物の安全確保を強化
- ◎6次産業化、協業化など強い経営体づくりを推進
- ◎付加価値向上、販路拡大など販売力の強化

- ① 施設整備
- ② 生産技術支援
- ③ 強い経営体の育成
- ④ 販売力強化
- ⑤ 養殖水産物の安全・安心強化

計画の概要

- 養殖業は地先海面を活用し、漁村に根ざした生産活動を通じて地域の再生と発展をになう基幹産業であり、生産者を中心としたコミュニティが復活し魅力ある漁村地域が再構築されるためには、収益性が高い持続的な養殖業として復興することが不可欠です。
- このため漁場の有効利用による生産性の向上、協業化などによる経営の合理化・効率化を図るとともに多様な消費者ニーズに対応した高品質で安全・安心な養殖生産物の安定供給の実現に努めます。加えて国際動向を踏まえた輸出や6次産業化などにより、新たな販路開拓に取り組むほか新規就業者の確保や後継者の育成に努めます。

II 計画期間

新たな養殖振興プランの計画期間は、平成27年から平成32年度までの6年間です。

III 本県養殖業に共通する課題と基本的な対応方向

施設整備

- ・漁港施設の復旧加速、共同利用施設の早期復旧
- ・災害に強い養殖施設の導入
- ・省力化・高品質化に向けた設備の導入

生産技術の支援

- ・種苗の安定確保（漁場環境調査の強化・普及指導）、病障害対策
- ・安定生産、品質向上に向けた適正養殖数量の把握、漁場の適正利用
- ・震災後の環境に適した高品質で病障害に強い系統の育種

強い経営体の育成

- ・共同化・協業化、法人化の推進とネットワーク化
- ・経営指導の強化、漁業経営安定化対策制度の活用
- ・漁業就労支援フェアの活用、経営・養殖技術に係る研修会など後継者対策

販売力の強化

- ・生産者、漁協、流通加工業者、観光業者と連携した効果的なPR
- ・新商品開発、農商工連携、6次産業化の推進
- ・輸出対策（ASC、ハラール認証、HACCP対応施設の整備など）

安全・安心の強化

- ・衛生管理の強化、安全検査の充実
- ・環境に配慮した養殖の推進
- ・放射性物質への対応

IV 養殖種ごとの目指す生産体制

(1) カキ

生産の安定化に加え、剥き期間の延長による早期出荷や春期出荷で生食用むき身の生産量を増加させます。あわせて殻付きカキの増産と単価向上により生産金額の増加を目指します。

(2) ホタテガイ

半成貝生産の安定化に加え、地先種苗の安定確保により品薄になる冬期から春期の生産量を増大させることで生産量、生産金額の増加を目指します。

(3) ギンザケ

出荷の前倒しにより単価を向上させるとともに、活締め・生食用の取扱を生産量の50%以上に拡大して生産金額の増加を目指します。

(4) ホヤ

被囊軟化症の監視など防疫対策を強化して生産量を増加し、活ホヤのPRと加工品の開発促進により国内消費の拡大で生産金額の増加を目指します。

(5) ノリ

種苗の安定確保、病障害対策などで生産量を増加させるとともに、各浜の特徴を活かした生産体制の構築を進めます。あわせて、品質の均一化や新たな製品の開発PRにより生産金額の増加を目指します。

(6) ワカメ

早取りワカメの出荷と間引き効果による品質向上と生産量の増加、メカブ生産量の増加などにより単価向上を図り、生産金額の増加を目指します。

(7) コンブ

主力の塩蔵コンブに加え、刺身コンブや宮城県ならではの干しコンブ生産に取り組めます。

H29		
生産量	生産金額	1経営体あたりの生産金額
2,624トン	5,026百万円	10.8百万円

H29		
生産量	生産金額	1経営体あたりの生産金額
10,474トン	3,292百万円	10.8百万円

H29		
生産量	生産金額	1経営体あたりの生産金額
13,638トン	6,840百万円	115.9百万円

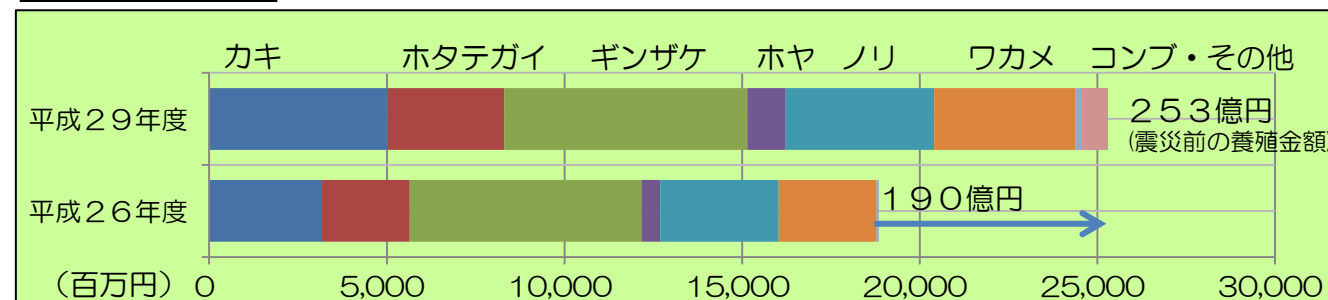
H29		
生産量	生産金額	1経営体あたりの生産金額
7,888トン	1,062百万円	2.4百万円

H29		
生産量	生産金額	1経営体あたりの生産金額
478百万枚	4,201百万円	32.1百万円

H29		
生産量	生産金額	1経営体あたりの生産金額
21,771トン	3,977百万円	4.2百万円

H29		
生産量	生産金額	1経営体あたりの生産金額
1,954トン	176百万円	1.2百万円

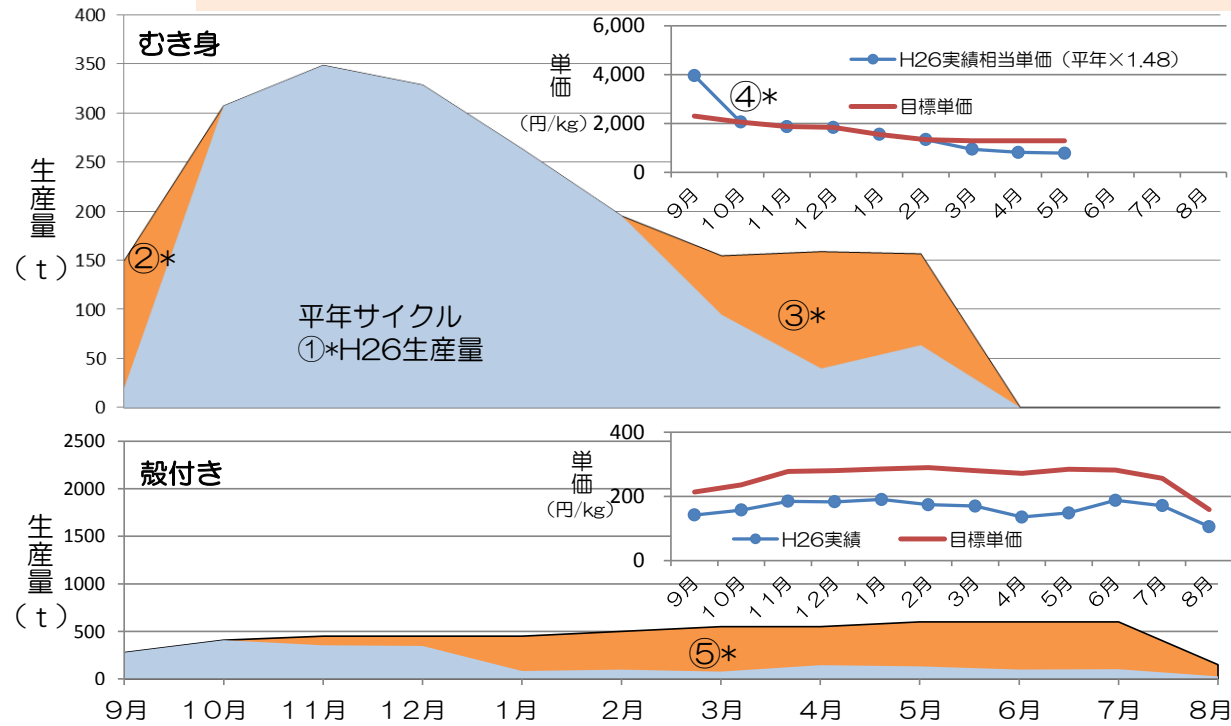
V 数値目標



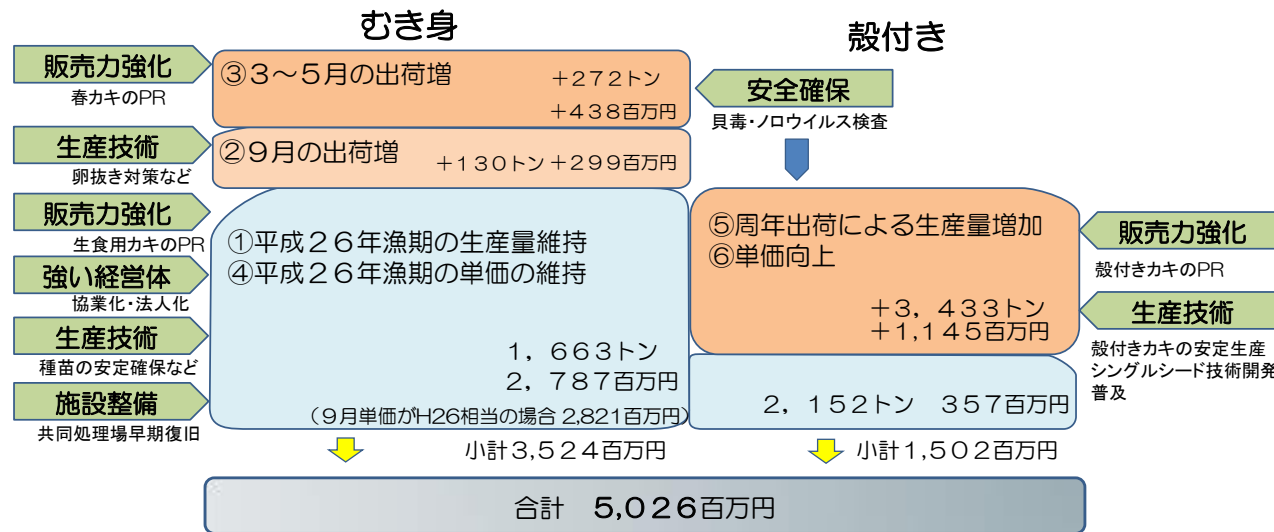
宮城県養殖振興プラン（再生期～発展期）【概要版②】

1 カキ

生産の安定に加え、剥き期間の延長による早期出荷や春期出荷で生食用むき身の生産量を増加させます。あわせて殻付きカキの増産と単価向上を目指します。



* この生産モデルの実現に向けた取組内容を図中の番号毎に以下に記す。



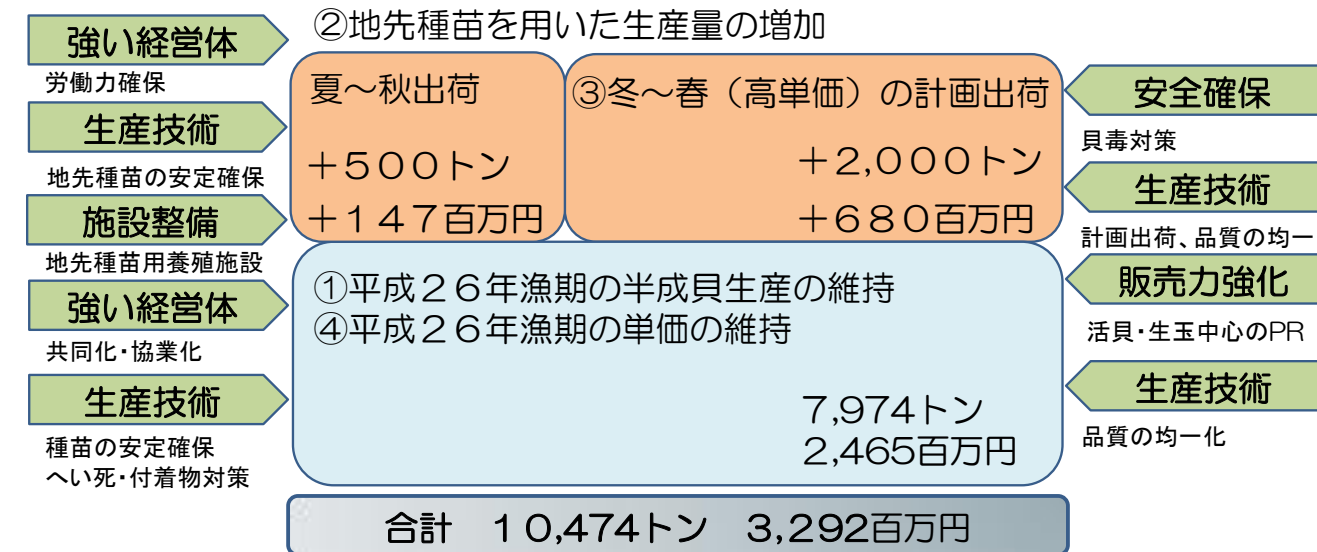
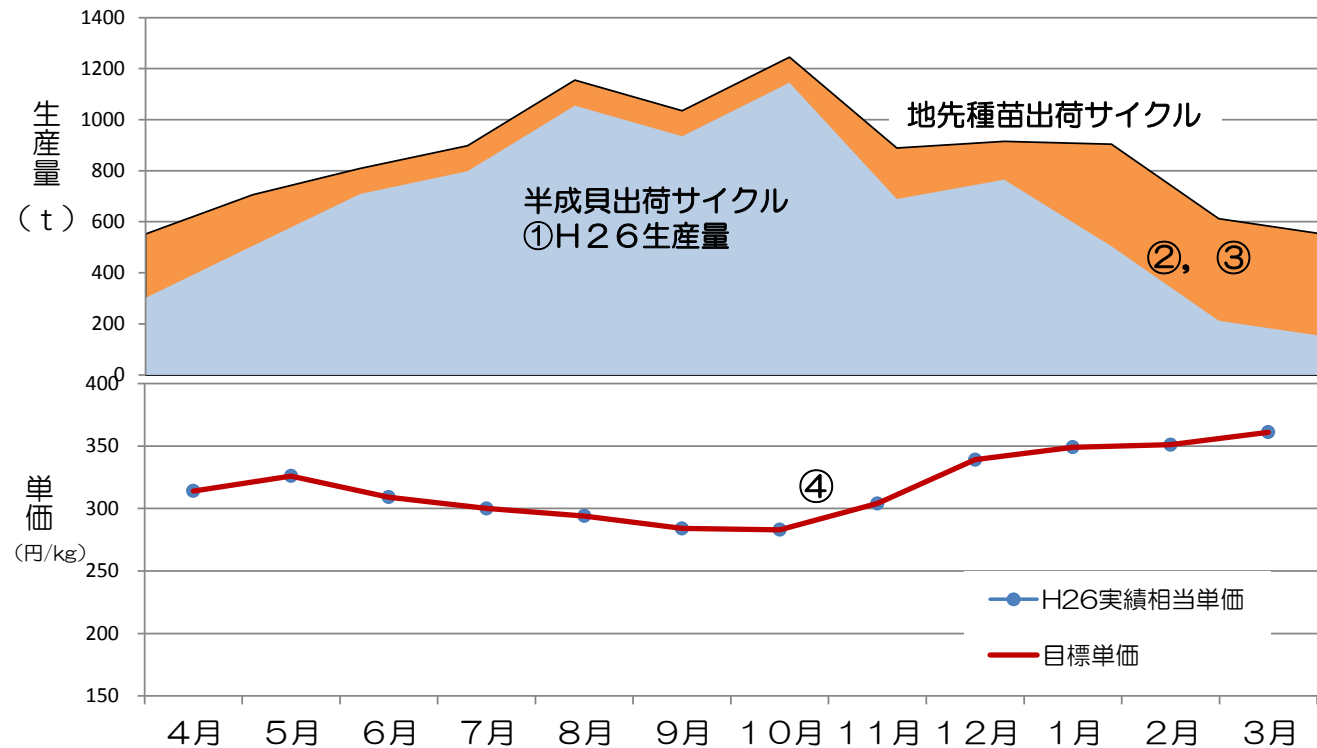
【結果】 むき身
生産量 2,065トン (H26比124%)
平均単価 1,707円 (H26比101%)
生産金額 3,524百万円 (H26比125%)

【結果】 殻付き
生産量 5,585トン (H26比260%)
平均単価 269円 (H26比162%)
生産金額 1,502百万円 (H26比420%)

	基準年 (H22)	H26実績	H29目標
生産量 (むき身換算)	4,165トン	1,878トン	2,624トン
生産金額	4,904百万円	3,178百万円	5,026百万円
単価 (むき身換算)	1,177円/kg	1,692円/kg	1,915円/kg
経営体数	1,141経営体	464経営体	464経営体 (H26実績相当と想定)
1経営体あたりの生産金額	4.2百万円	6.8百万円	10.8百万円

2 ホタテガイ

半成貝生産の安定化に加え、地先種苗の安定確保により品薄になる冬期から春期の増産を目指します。



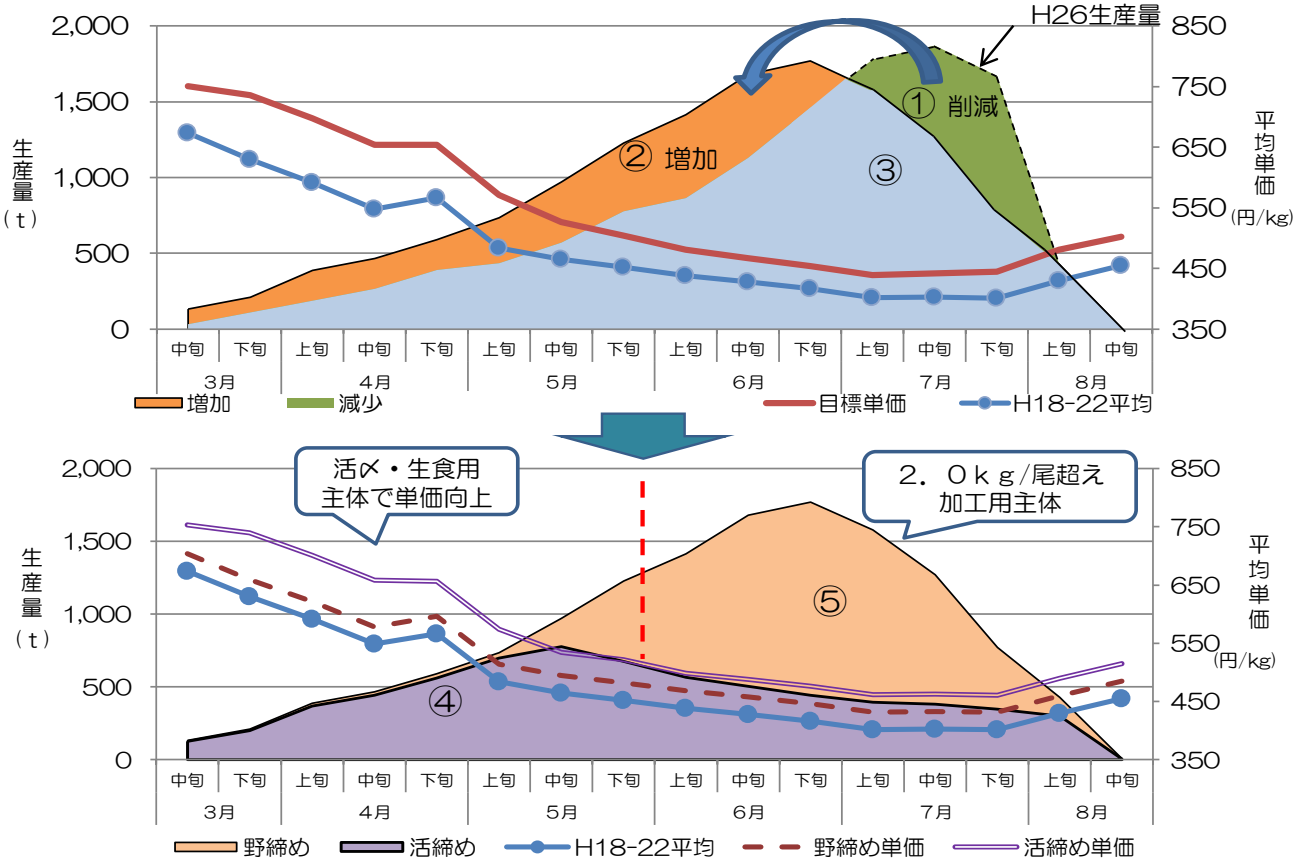
	基準年 (H22)	H26実績	H29目標
生産量 (殻付き換算)	12,822トン	7,974トン	10,474トン
生産金額	3,385百万円	2,465百万円	3,292百万円
単価 (殻付き換算)	264円/kg	309円/kg	314円/kg
経営体数	737経営体	305経営体	305経営体 (H26実績相当と想定)
1経営体あたりの生産金額	4.4百万円	8.1百万円	10.8百万円

宮城県養殖振興プラン（再生期～発展期）【概要版③】

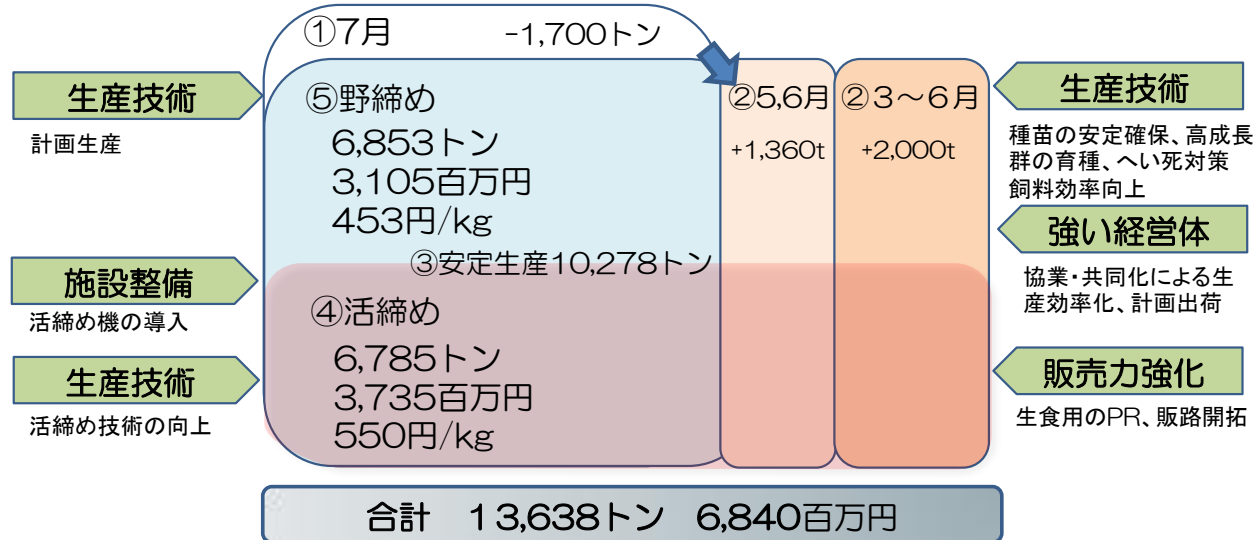
3 ギンザケ

出荷の前倒しにより単価を向上させるとともに、活締め・生食用の取扱を生産量の50%以上に拡大します。

ギンザケ目標生産額の考え方



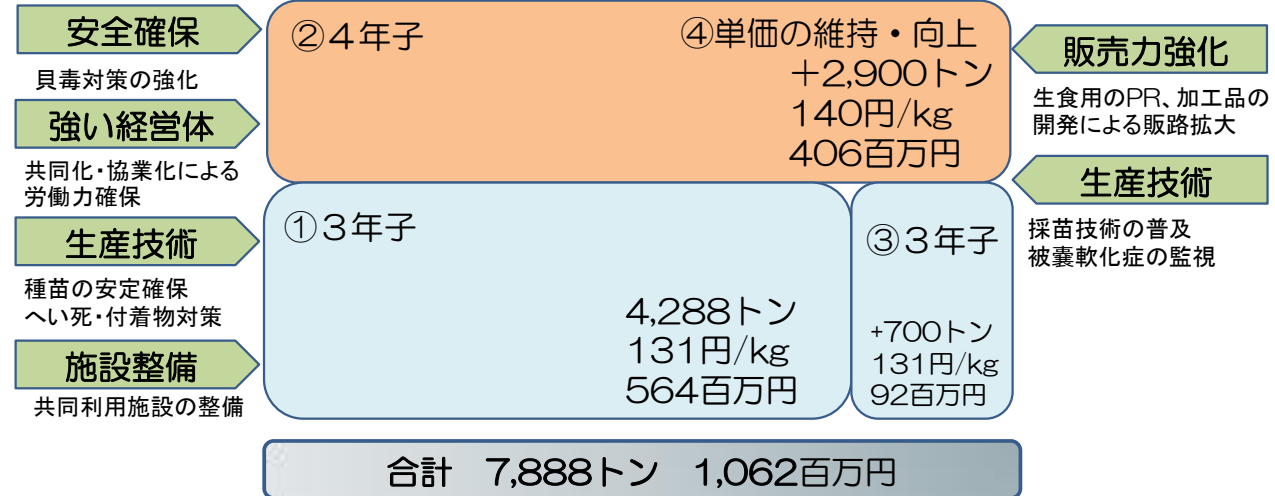
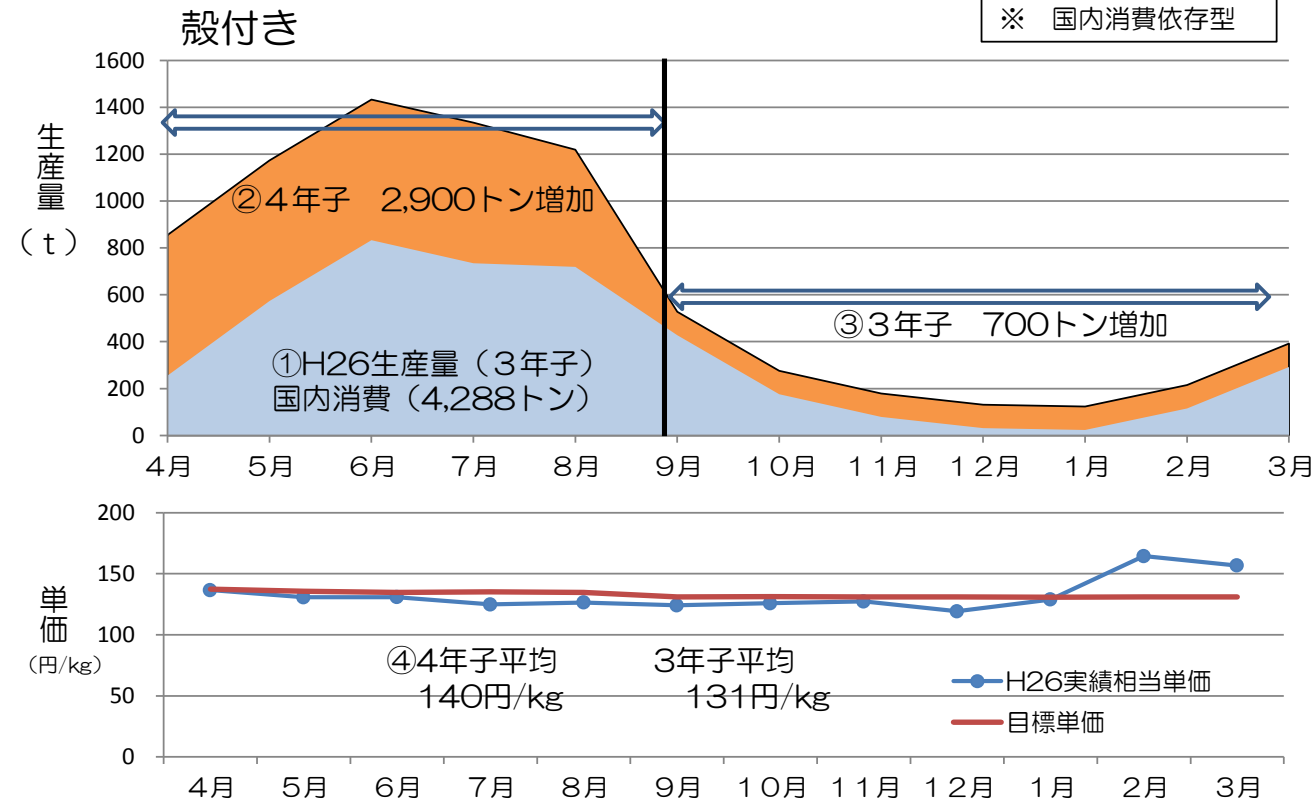
H26 11,978トン



	基準年 (H22)	H26実績	H29目標
生産量	14,750トン	11,978トン	13,638トン
生産金額	6,263百万円	6,520百万円	6,840百万円
単価	425円/kg	544円/kg	502円/kg
経営体数	92経営体	59経営体	59経営体 (H26実績相当と想定)
1経営体あたりの生産金額	68.1百万円	110.5百万円	115.9百万円

4 ホヤ

被囊軟化症の監視など防疫対策を強化して生産量を増加し、活ホヤのPRと加工品の開発促進により国内消費を拡大します。

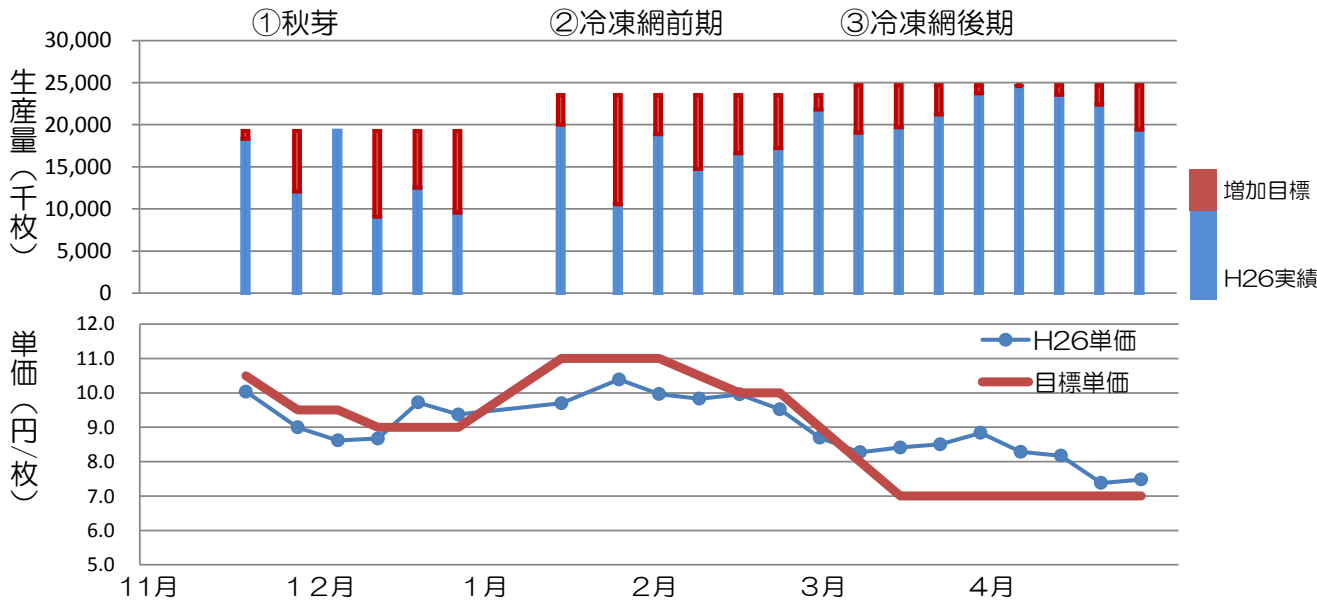


	基準年 (H22)	H26実績	H29目標
生産量	8,663トン	4,288トン	7,888トン
生産金額	1,152百万円	564百万円	1,062百万円
単価	133円/kg	131円/kg	135円/kg
経営体数	697経営体	451経営体	451経営体 (H26実績相当と想定)
1経営体あたりの生産金額	1.6百万円	1.3百万円	2.4百万円

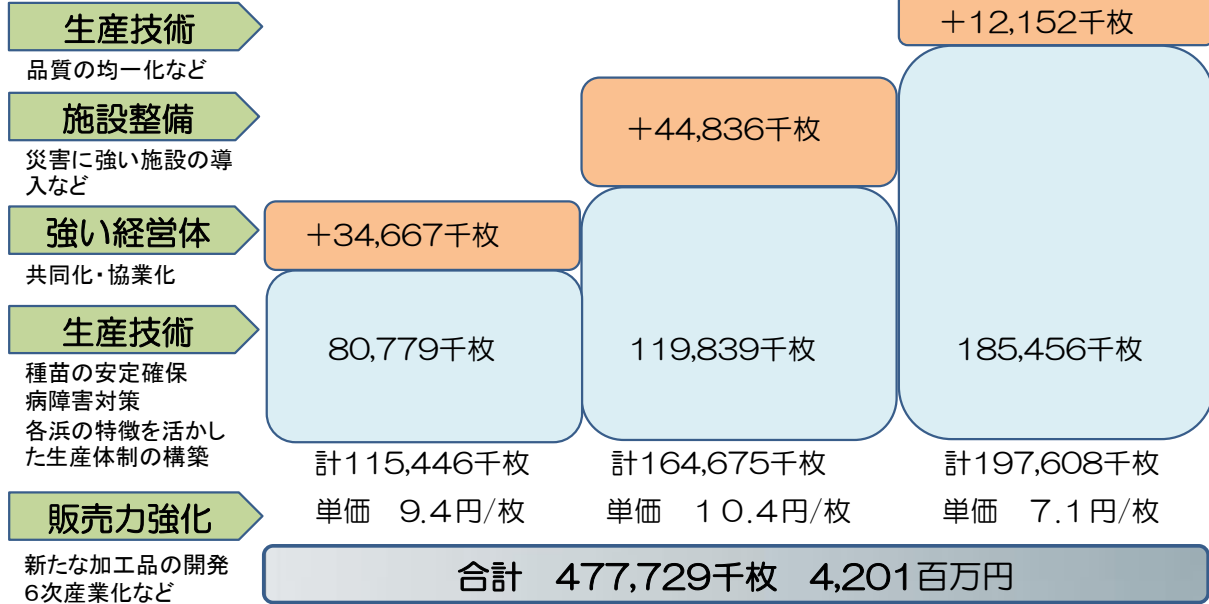
宮城県養殖振興プラン（再生期～発展期）【概要版④】

5 ノリ

種苗の安定確保、病障害対策などで生産量を増加させるとともに、各浜の特徴を活かした生産体制の構築を進めます。あわせて、品質の均一化や新たな製品の開発PRにより生産金額の増加を目指します。

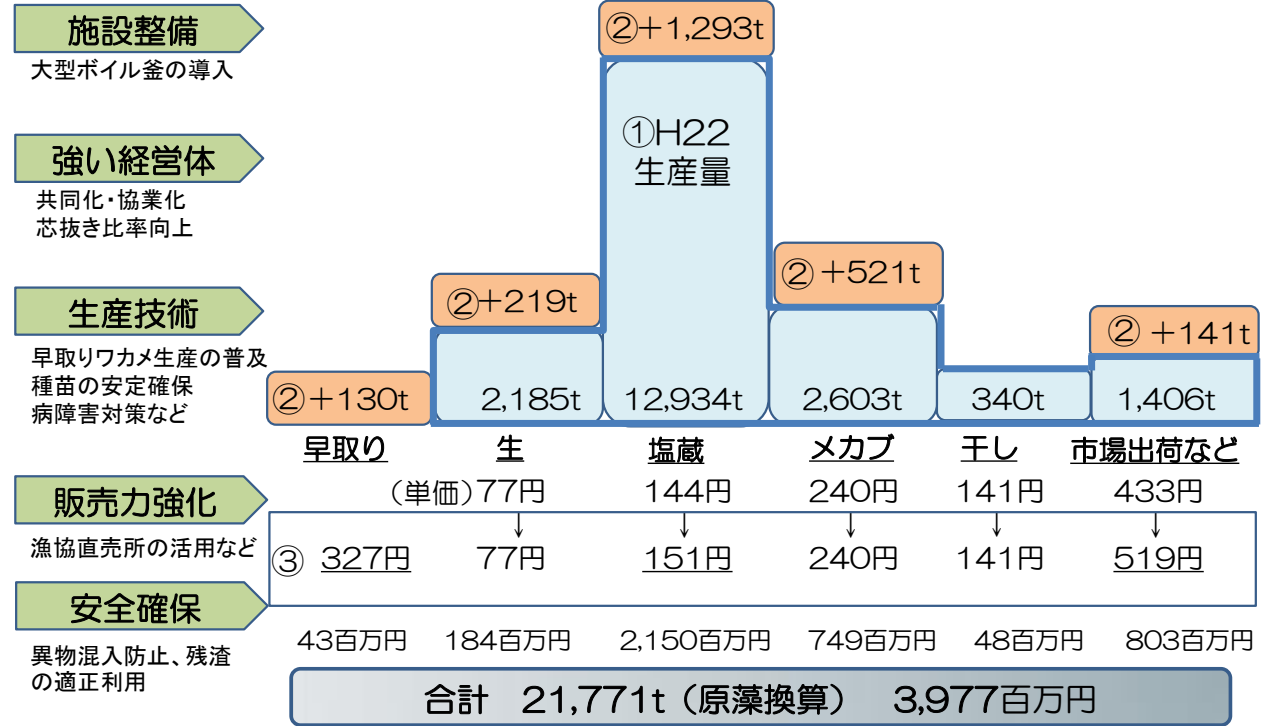
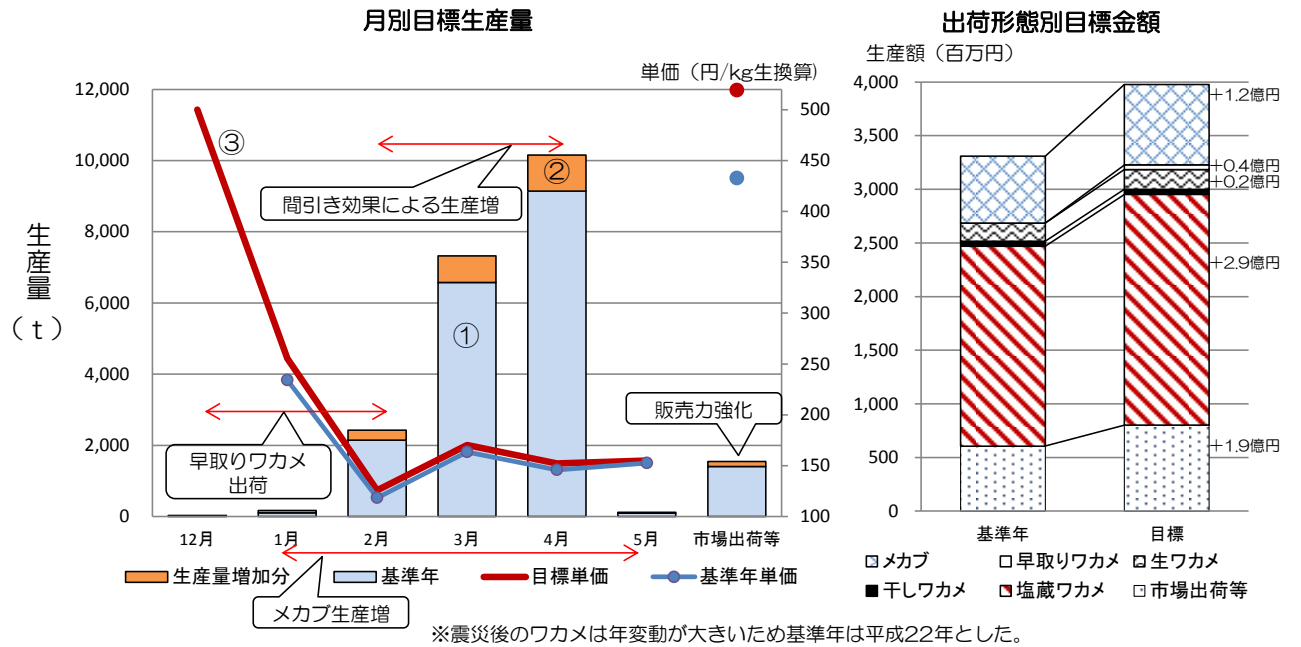


①秋芽 ②冷凍網前期 ③冷凍網後期



6 ワカメ

早取りワカメの出荷と間引き効果による品質向上と生産量の増加、メカブ生産量の増加などにより単価向上を図ります。



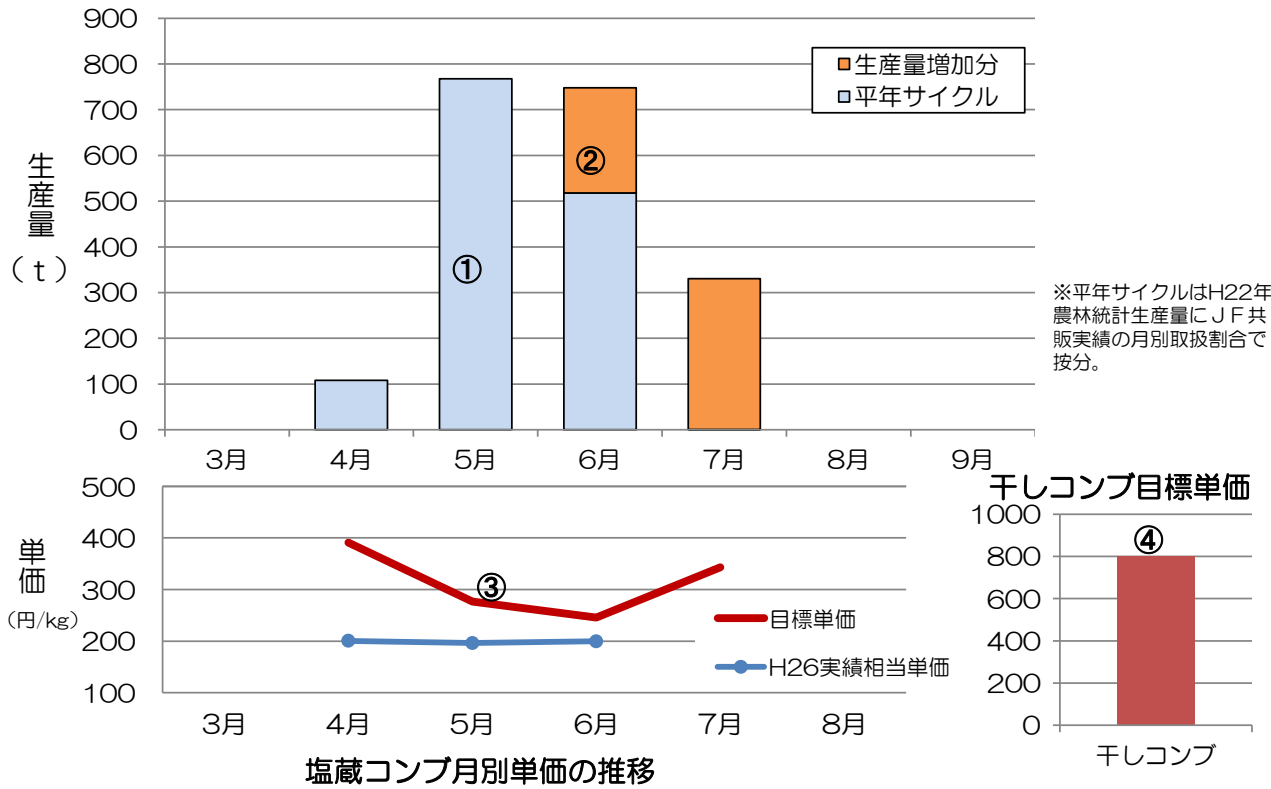
	基準年(H22)	H26実績	H29目標
生産量	24,417トン (板ノリ換算659百万枚)	386百万枚	478百万枚
生産金額	5,340百万円	3,414百万円	4,201百万円
単価	8.1円/枚	8.8円/枚	8.8円/枚
経営体数	208経営体	131経営体	131経営体 (H26実績相当と想定)
1経営体あたりの生産金額	25.7百万円	26.1百万円	32.1百万円

	基準年(H22)	H26実績	H29目標
生産量(原藻換算)	19,468トン	14,503トン	21,771トン
生産金額	3,310百万円	2,761百万円	3,977百万円
単価(原藻換算)	170円/kg	190円/kg	183円/kg
経営体数	1,167経営体	958経営体	958経営体 (H26実績相当と想定)
1経営体あたりの生産金額	2.8百万円	2.9百万円	4.2百万円

宮城県養殖振興プラン（再生期～発展期）【概要版⑤】

7 コンブ

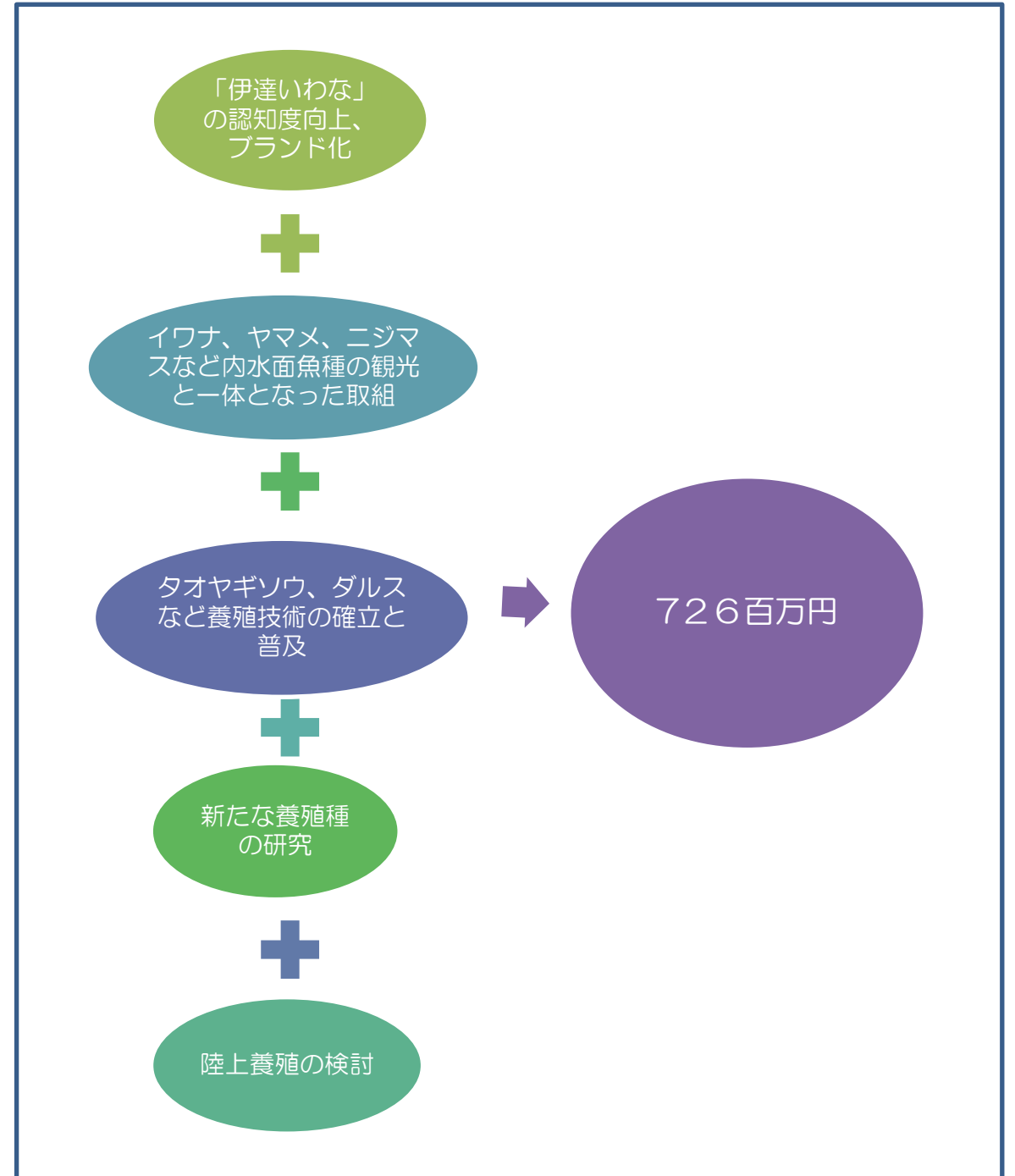
主力の塩蔵コンブに加え、刺身コンブや宮城県ならではの干しコンブ生産に取り組みます。



施設整備 共同利用施設の整備	②干しコンブ +560トン（原藻）	販売力強化 干しコンブPR 漁協直売所活用など
生産技術 干しコンブ技術支援	④単価800円/kg（干し） 45百万円	安全確保 異物混入の防止
生産技術 種苗の安定確保、病害対策	①塩蔵コンブ 1,394トン（原藻）	販売力強化 三陸産塩蔵コンブ、柔らかコンブのPR
強い経営体 共同化・協業化による労働力確保	③単価314円/kg（塩蔵） 131百万円	
合計 1,954トン 176百万円（原藻 90円/kg）		

8 その他

内水面では「伊達いわな」などのブランド化を進めて観光と一体となった養殖業の振興を促進します。また海面では、タオヤギソウやダルスなど新規養殖品目の養殖技術の普及により養殖品目のさらなる多様化を図り、生産の安定化を目指します。



	基準年（H22）	H26実績	H29目標
生産量（原藻換算）	1,394トン	918トン	1,954トン
生産金額	100百万円	66百万円	176百万円
単価（原藻換算）	72円/kg	72円/kg	90円/kg
経営体数	163経営体	153経営体	153経営体 (H26実績相当と想定)
1経営体あたりの生産金額	0.6百万円	0.4百万円	1.2百万円